

# 雑草イネに有効な水稻除草剤を使用した防除体系

山形県農業総合研究センター土地利用型作物部

## 研究のねらい

近年、県内の一部の水田で雑草化したイネ（雑草イネ）の発生が確認されている。雑草イネは栽培品種と同じ植物種であるため、通常の防除体系では対応できない。そこで、雑草イネに有効な水稻除草剤を使用した防除体系を構築した。

## 研究の成果

- ① 代かき時、移植時、移植後7～10日及び移植後14～20日に雑草イネ（図2）に有効な除草剤を処理することで発生を抑えることができる（図1）。除草剤が雑草イネに対して効果を示す時期は雑草イネの出芽前から出芽始期までに限られるため、除草剤処理の間隔は7～10日を基本とする。
- ② 雑草イネが出芽する期間は長く、5月上旬から6月上旬頃まで続く（図1）。そのため、5月15日に移植した場合、移植後7～10日の一発剤までの3回体系処理では、処理後に発芽した雑草イネが残草する。一方、移植後14～20日の中期剤を含めた4回体系処理では、6月上旬に出芽する雑草イネも防除可能であり、残草量を少なく抑えることができる（図3）。

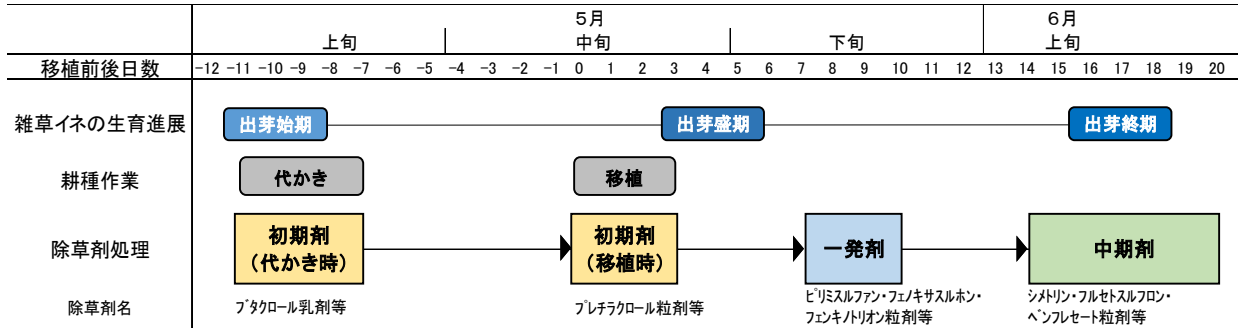
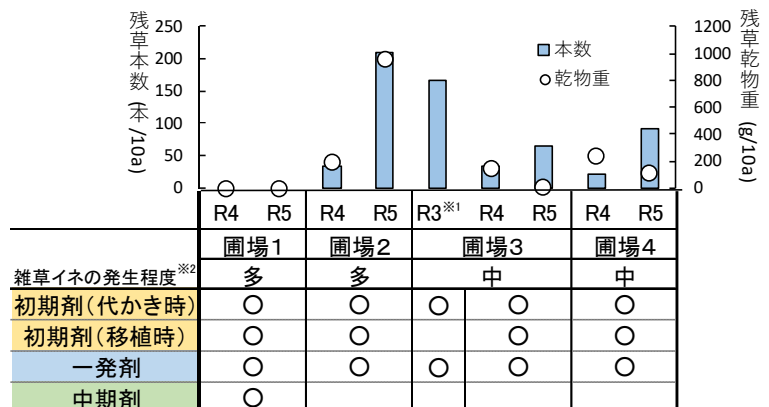


図1 雑草イネの防除体系



図2 出穂した雑草イネ



※1 圃場3のR3は乾物重データなし

※2 試験開始前年の発生程度。多: 1000株/10a、中: 250株/10aを目安とした。

図3 現地圃場における各除草剤体系の除草効果